

2013

CSR報告ダイジェスト

Continuous Growth with a Sustainable Society

アンリツ株式会社
www.anritsu.com/csr



CSR

CSR Report Digest



Anritsu

目次

会社概要	01
事業概要	03
トップコミットメント	05
社会課題の解決	
計測事業	07
産業機械事業	09
情報通信事業	10
アンリツグループの CSR 重要課題	11
ステークホルダーダイアログ	13
達成像 1-4	15
第三者意見 / 第三者意見を受けて	18

編集方針

2012年度のCSR活動は「CSR 報告 2013」として、ダイジェスト版の冊子と詳細版のPDFを発行して報告しています。ダイジェスト版では、各事業での社会的課題解決への関わりに焦点を当てるとともに、昨年に続いて開催したステークホルダーダイアログでの議論とアンリツグループのCSR重要課題について分かりやすく報告することを基本としました。詳細版（PDF）では重要性測定により導き出された12の重要課題ごとに整理し、それぞれの具体的な活動状況を掲載することで、より多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることに努めています。

<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/>

財務面の詳細については、ウェブサイト <http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/Investor-Relations/> またはアニュアルレポートをご参照ください。

【参考にしたガイドラインなど】
・ISO 26000：2010 ・GRI 3.1

活動報告対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日
(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます。)

活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- ・「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体的場合
- ・「アンリツ(株)」
記事内容がアンリツ(株)単体的場合
- ・「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場合

発行日：2013年8月1日(前回：2012年8月1日)
お問合先：アンリツ(株) コーポレートコミュニケーション部
CSR推進チーム
TEL：046-296-6514
FAX：046-225-8358
URL：<http://www.anritsu.com>
(次回は2014年7月に発行予定です。)

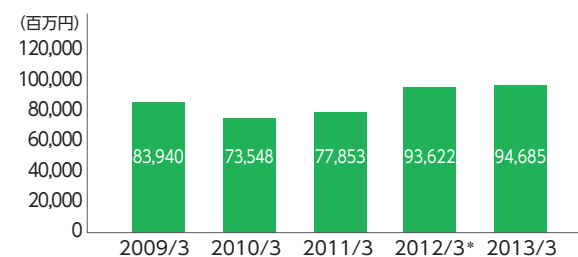
会社概要

本社所在地：神奈川県厚木市恩名 5-1-1
創業：1895年
資本金：190億52百万円*1
売上高：946億85百万円*2
株主数：11,229名*1
社員数：3,771名(連結)*1
831名(単独)*1
取引先社数：804社*1



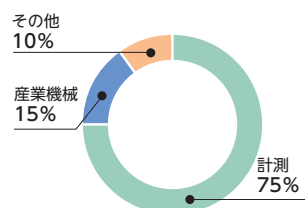
*1 2013年3月31日現在 *2 連結：2013年3月期

売上高

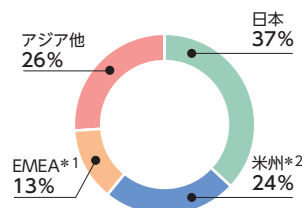


* 2012年3月期より IFRS (国際財務報告基準) 適用

事業別連結売上高比率 (2013年3月期)

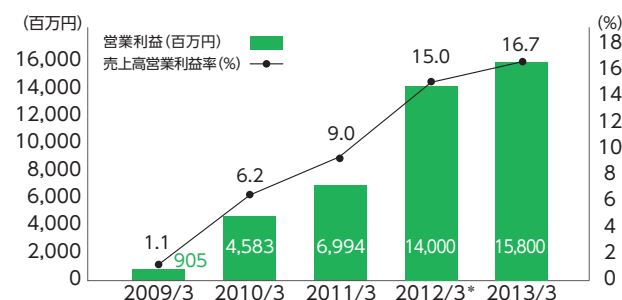


地域別連結売上高比率 (2013年3月期)



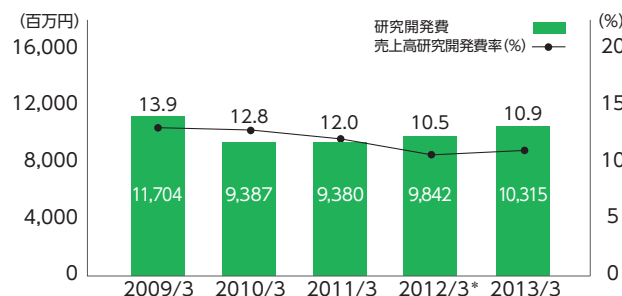
*1 Europe, the Middle East and Africa の略。欧州・中近東・アフリカを表す。
*2 アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジルを表す。

営業利益 / 売上高営業利益率



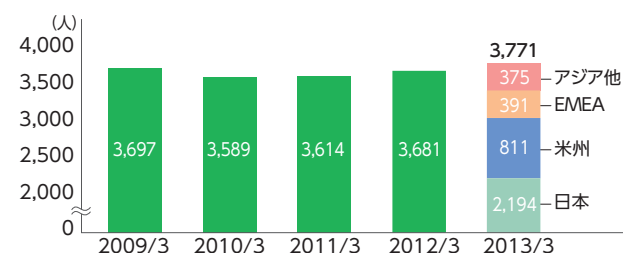
* 2012年3月期より IFRS (国際財務報告基準) 適用

研究開発費 / 売上高研究開発費率



* 2012年3月期より IFRS (国際財務報告基準) 適用

■ 社員数（アンリツグループ）



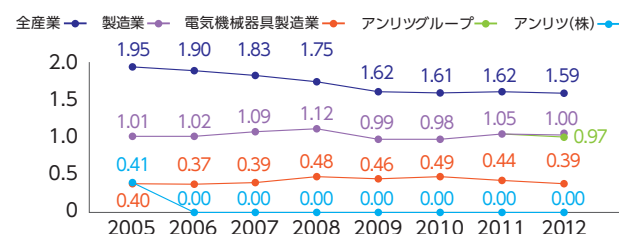
■ グローバルにみた女性の活躍状況（2013年1月末現在）

	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率 (女性社員数÷全社員数)	17%	31%	25%	31%	22%
男性を100とした女性の幹部職登用率 (女性幹部職数÷女性社員数)÷ (男性幹部職数÷男性社員数)	8%	59%	82%	57%	45%

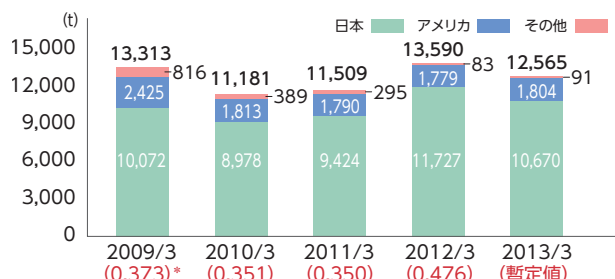
■ 社員データ（国内グループ会社）

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
社員数(国内グループ計)	2,274	2,240	2,206	2,194
男性	1,988	1,952	1,927	1,900
女性	286	288	279	294
外国籍	25	20	16	24
非正規雇用	305	376	463	625
平均年齢	40.9	40.3	41.5	41.5
平均勤続年数	18.1	18.5	18.6	18.1
アンリツ単体 障がい者雇用率(%)	1.76	1.98	2.25	1.95
アンリツ国内連結 障がい者雇用率(%)	1.37	1.50	1.56	1.62
法定雇用率(参考)	1.80	1.80	1.80	1.80

■ 労働災害発生状況（日本）

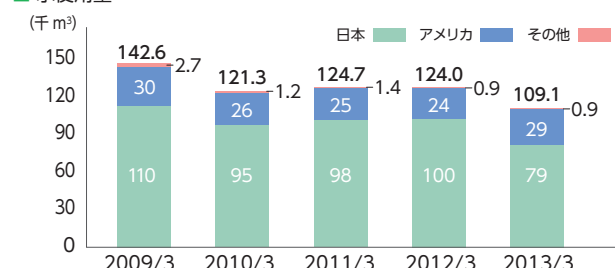


■ 全エネルギー使用による CO₂ 排出量



* () 内にアメリカを除く電気エネルギーの排出係数を記載。アメリカは 0.285。
年度毎の確定値を用いて過去の排出量を変更しています。
端数調整のため合計値は一致しない場合があります。

■ 水使用量



* 端数調整のため合計値は一致しない場合があります。

主要国内グループ会社

- アンリツ産機システム株式会社
産業機械の開発・製造・販売・修理・保守・サービス
- 東北アンリツ株式会社
計測器・情報通信機器の製造
- アンリツ計測器カスタムサービス株式会社
計測器の校正・修理・保守・EMC/HALT 試験
- アンリツエンジニアリング株式会社
ソフトウェア・ハードウェアの開発
- アンリツネットワークス株式会社
情報通信製品の開発・販売・システム設計・保守・サービス
- アンリツデバイス株式会社
光デバイスの開発・製造・販売
- アンリツ興産株式会社
計測器のリセール・リサイクル・デザイン・ドキュメントなどの制作
- アンリツ不動産株式会社
不動産の賃貸
- 株式会社アンリツプロアソシエ
経理財務・給与計算・福利厚生に関する
シェアードサービスセンター業務
- AT テクマック株式会社
切削・板金部品・ユニット組立品の製造・販売

主要海外グループ会社

米州

- Anritsu U.S. Holding, Inc. (U.S.A.)
- Anritsu Company (U.S.A.)
- Anritsu Instruments Company (U.S.A.)
- Anritsu Industrial Solutions U.S.A. Inc. (U.S.A.)
- Anritsu Electronics Ltd. (Canada)
- Anritsu Eletronica Ltda. (Brazil)
- Anritsu Company S.A. de C.V. (Mexico)

EMEA

- Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)
- Anritsu Ltd. (U.K.)
- Anritsu Industrial Solutions Europe Ltd. (U.K.)
- Anritsu GmbH (Germany)
- Anritsu S.A. (France)
- Anritsu S.r.l. (Italy)
- Anritsu Solutions S.r.l. (Italy)
- Anritsu A/S (Denmark)
- Anritsu AB (Sweden)
- Anritsu Solutions S.R.L. (Romania)

アジア他

- Anritsu Company Ltd. (China)
- Anritsu Electronics (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu (China) Co., Ltd.
- Anritsu Industrial Solutions (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu Industrial Systems (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu Company, Inc. (Taiwan)
- Anritsu Corporation, Ltd. (Korea)
- Anritsu Pte. Ltd. (Singapore)
- Anritsu India Private Ltd. (India)
- Anritsu Industrial Solutions (Thailand) Co., Ltd. (Thailand)
- Anritsu Pty. Ltd. (Australia)

毎日の生活につながるアンリツグループ

あなたの暮らしをより便利に、快適に

ー モバイルブロードバンドサービスを支える、計測ソリューション ー



通話・メール

いつでも、どこでも

動画・音楽

大容量データの送受信

SNS・ゲーム

つながる、ひろがる

医療・福祉

遠隔からの診察 / 診断

教育

学ぶ、調べる

スマート家電

スマホでコントロール

暮らしのイン

ー ブロードバンドネットワークを



携帯電話基地局

基地局のエリア確認

光ファイバー

断線箇所を特定



アンリツが提供するソリューションで安全・安心な社会へ――

つなげる - みまもる - みつける。

アンリツは、情報通信・映像監視・食品・医薬品などのさまざまな分野で、皆さまの暮らしやビジネスを支え、安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。

あなたの暮らしに安心を

― 食の安全、災害監視、眼病検査などで暮らしを支える、各種ソリューション ―



異物検査

混入した異物を発見

質量検査

欠品・不良品を発見

計量検査

分量の最適化

遠隔監視

ダムの水位・流量を監視

防災・減災

事故や災害の映像監視

医用機器

眼科医用機器の光源

フラを支える

支える、計測ソリューション



通信ネットワーク

ネットワークの監視・品質保証

データセンター

通信設備の高速化

明日へのビジョンを共有し アンリツらしい価値を創造する



2013年8月

アンリツ株式会社 代表取締役社長

橋本 裕一

社会価値の提供こそ、長寿力の源泉

中期経営計画 GLP2014 の初年度となる 2012 年度はいずれの経営指標も達成し、順調なスタートを切ることができました。2020 年までに到達したい姿を描いた「2020 VISION」に向け、着実に歩みを進めています。

1895 年の創業以来、当社は一貫して情報通信のフィールドで事業を展開してきました。今をさかのぼること 100 年前の 1914 年には当社の前身である安中電機製作所が製造した「TYK 式無線電話機」が、世界初の実用無線電話機として運用されました。アンリツは、この元祖スマホを世に出した技術を、モバイルブロードバンドサービスの進化・発展を支える計測技術、食品・医薬品の異物検出・重量選別など、さまざまな分野に適応し、今日にいたっています。

一般に企業の寿命が 30 年と言われるなか、このように常に時代の最先端で新たな価値を創造し社会の要請に応えてきたこと、そして、経営理念で掲げる「誠と和と意欲」、「オリジナル&ハイレベル」を誠実に紡い

できたことが、アンリツの長寿力だと考えています。

これからも、アンリツらしい強みを発揮し、社会的課題の解決に貢献することこそ、私たちアンリツグループの使命である。私はそう確信しています。

Visionary Partnership に込めた思い

「2020 VISION」では、アンリツらしい顧客価値、社会価値を提供することを通じて、「グローバル・マーケットリーダーになる」という目標を掲げています。この目標を見据え、ブランドの磨きなおしに取り組んでいます。このプロジェクトでは、まずアンリツグループ内で、アンリツらしさとは何かを大いに議論し、等身大のアンリツの強みとそれを未来へ活かしていくための思いをまとめ上げました。それが、「Visionary Partnership to innovate for tomorrow's society」です。私たちはこのメッセージに、「110 年を超える歴史を通して蓄積してきた経験豊かな実践知、先見性と創造力でお客さま

と密接で対等な Win-Win のコラボレーションを推進し、安全・安心、そして豊かな社会への進歩に貢献する」という志を込めています。

現在、次のステップとして、お客さま、社会に対する約束を端的に表現するための取り組みを進めています。単なる言葉の開発に終わらせることなく、意識・風土改革にもつなげ、名実ともにグローバル・マーケットリーダーにふさわしい先進と信頼のブランドを築き、皆さまの期待に応えてまいります。

復興のシンボルから全世界へ製品を供給

東日本大震災から2年。当社は、福島県郡山市に新たな工場を建設しました。この投資は福島県の復興支援事業に採択されました。新工場の建設を通じて、郡山の地で雇用の安定、創出を図り、復興を後押しできればと考えています。郡山の社員の士気も高まっており、復興のシンボルにしたいと一層の熱意を持って取り組んでいます。

新工場の稼働により、プリント基板ユニットの増産体制が整いました。より安定したものづくりの道が開けるとともに、2つの生産拠点を構えたことにより、BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) が強化されました。また、新工場は「緑あふれる環境と一体となったハイテク工場」をコンセプトとしており、ソーラーパネルによる発電、リサイクル建材の活用、全館 LED 照明の導入、地元の気候風土に根ざした植栽など、

世界トップクラスの環境配慮性を実現しています。

情報通信システムの進化・発展や食品・医薬品の品質保証を担う当社は、何があってもお客さまに製品とサポートサービスを提供する責務があります。今回の新工場稼働を機に、郡山サイトをアンリツグループのグレートマザー工場とし、お客さまの期待に応えてまいります。

アンリツらしきで、つながる社会に貢献

今日の社会は、人、物、情報が時間、空間を超えてつながることによって、新たな産業やサービスを生むとともに、より安全・安心で快適な社会システムの実現に向けた動きが続いています。この牽引役となっているのが、無線通信技術であり、医療、教育、福祉、防災、スマートな街づくりなど、高速モバイルネットワークは、あらゆる生活シーンで利活用されています。その一方、データトラフィックが急増し、スマートフォンの通信障害が報道される時代になりました。

ビッグデータがネットワーク上を飛び交う渦中で、いかに安定して“つながるシステム”の構築に参画し、安全・安心で快適な社会の実現に貢献するか。アンリツは、常にこの志を持って事業に取り組んでいます。

これからも、新たな社会に向けたビジョンを描き、お客さまと共有し、アンリツらしい価値を創造してまいります。



国連グローバル・コンパクト

2006年3月、アンリツは「国連グローバル・コンパクト (GC)」の掲げる10原則に賛同し、参加を表明しました。この原則をグループ全体のCSR活動と結びつけて推進しています。

経営理念・経営ビジョン・経営方針

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。

◆ 経営理念	誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する
◆ 経営ビジョン	衆知を集めたイノベーションで“利益ある持続的成長”を実現する マーケットドリブンとカスタマー・フォーカスによるイノベーション活動で、グローバルなマーケットリーダーになる
◆ 経営方針	1. 衆知を集めた全員経営でハツラツとした組織へ 2. イノベーションで成長ドライバーの獲得 3. グローバル市場でマーケットリーダーになる 4. 良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献

2020 VISION



1 計測事業

あなたの暮らしをより便利に、快適に

ーモバイル／ワイヤレスの情報通信サービスを支える、計測ソリューションー

アンリツ(株)は、進化を続ける情報通信の分野で、各種通信システムやサービス・アプリケーションの開発、品質保証に欠かせない計測器を提供しています。

モバイルブロードバンドサービスが 変える世界観

今や携帯電話の加入者数は世界人口 70 億に迫る 60 億を超え、暮らしやビジネスに欠かせない通信手段となっています。近年の携帯電話は、通話よりもメールや SNS に加え、音楽や動画を楽しむ役割が大きくなっています。こうしたモバイルブロードバンドサービスの扉を開いたスマートフォンの普及は加速を続け、2017 年には 15 億台が生産されると予測されています。また、LTE と呼ばれる高速移動通信サービスも進展し、2014 年以降、126 カ国、424 事業者が導入すると見込まれています。

スマートフォン・タブレット端末を用いた最新情報への容易なアクセスや鮮明な動画・静止画のスピーディな送受信機能は、多くの社会的課題の解決に貢献することが期待されています。すでに、急激な天候変化や地震発生 of 早期伝達により被害を最小限に抑えようと

もに、災害発生時の情報収集や家族の安否確認といったインフラとしての活用が広がっています。

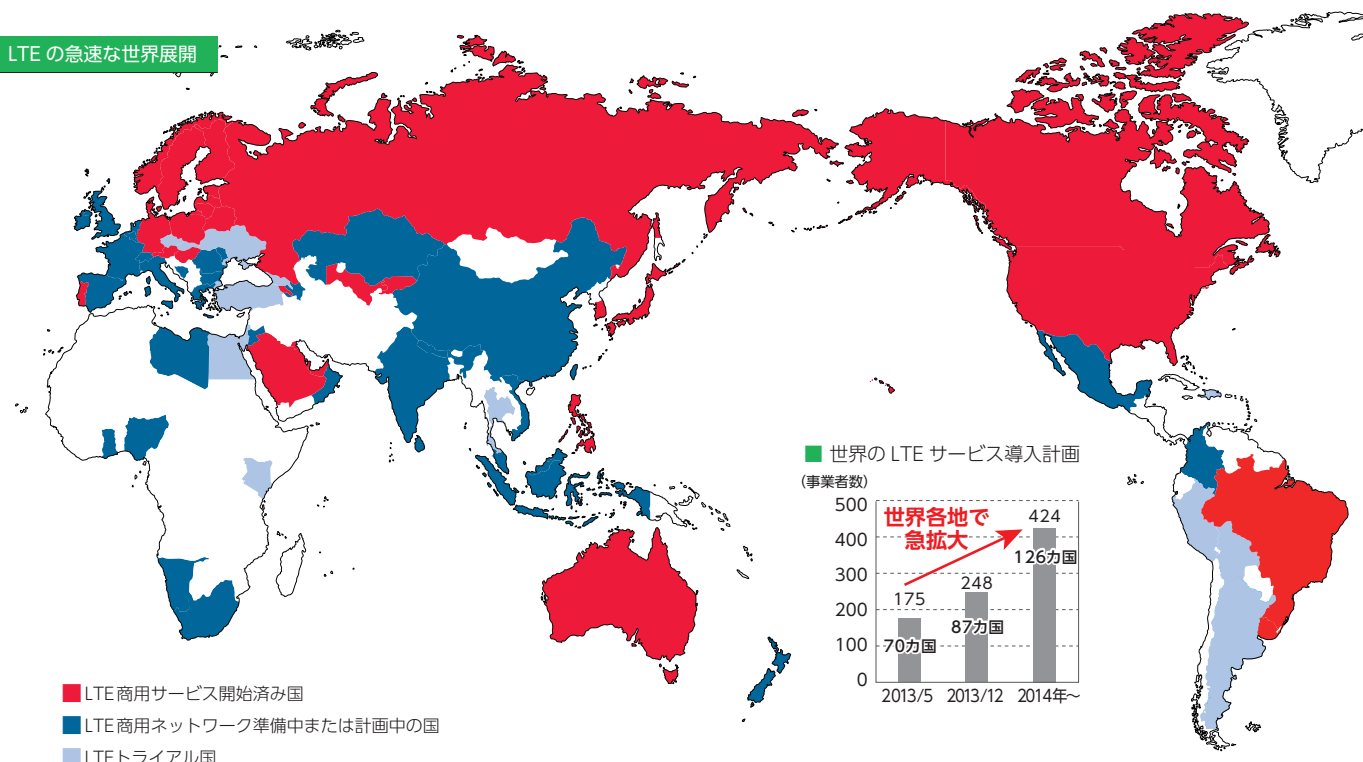
さらに、学校に行くことが困難な子どもに遠隔教育の機会を提供し、教育の格差・不平等を解決することができます。また、ヘルスケアの領域では、世界のどこに住んでいても高品質な診断が受けられ、高度専門医療へのアクセスが容易になる日も近づいています。

最新規格 LTE での T&M*1ソリューション

各種移動通信システムは国際標準規格が定められており、モバイル端末やその中に組み込まれるチップセットを開発・製造するメーカーは、その機器が規格に準拠していることを確認するため、さまざまな条件で検証することが求められます。

アンリツはこの用途で使用される計測システムにおいて、リーディングカンパニーとしてお客さまから

LTE の急速な世界展開



出典 GSA Evolution to LTE Report (2012.01.05)



厚く信頼いただいています。特に、現在商用化されている最速の通信規格であるLTE、およびLTEを高速化した次世代規格であるLTE-Advancedでは、競合他社に先駆けて審査・認証機関が定めたテスト項目を満たすテストシステムを開発しています。

このほか、無線通信インフラの整備・拡充においても、アンテナ・ケーブルや基地局から発信される電波の品

質評価用計測器を提供しており、高いマーケットシェアを獲得しています。

アンリツの計測事業は、最先端のモバイル端末の開発・製造から無線通信インフラの建設・保守までカバーしたソリューションで、ICT^{*2}の進化・発展、快適な社会基盤の構築を支えています。

*1 Test and Measurement

*2 Information and Communication Technology

研究開発フェーズ

マーケットシェア 50%
グローバル No.1



第3世代(3G)携帯電話通信規格の研究開発では業界に先駆けてソリューションを提供し、デファクトスタンダードの地位を確立しました。ここで培った実績とお客さまとの信頼関係をベースに、次世代通信規格LTEの研究開発でも貢献しています。

*マーケットシェアは当社推定

製造・量産フェーズ

マーケットシェア 30 ~ 40%
グローバル Top3



スマートフォン、タブレット端末に代表される携帯端末生産ラインの製造・検査工程においても、お客さまの生産にあった各種計測器および検査システムを提供し、製造・量産に寄与しています。

ネットワーク建設・保守

マーケットシェア 70 ~ 80%
グローバル No.1



建設・保守現場への携行ニーズに対応し、計測器のハンドヘルド化を業界に先駆けて実現しました。基地局建設・保守用計測器のデファクトスタンダードとして、世界的に進展している無線通信網の拡充に貢献しています。

次世代の最新スタンダードへの対応

アンリツ株式会社 専務執行役員 / Anritsu Company (米国) 社長 フランク ティアナン

現在、世界のほぼすべての国で、モバイル通信ネットワークの整備が積極的に進められており、第2世代からLTEへの移行が進展している国もあります。アンリツではこのような流れを支援するため、LTEに対応する計測器をフルラインで提供しながら、さらにLTEの約10倍の速度で通信できるLTE-Advancedに向けた技術開発も進めています。

この次世代規格は、アメリカでは2013年中に、日本でも2015年頃から商用サービスが開始されます。多くのベンダーがLTE-Advancedに対応した機器の開発・製造に注力しており、計測器の需要も高まっています。アンリツは他社に先駆けてLTE-Advanced対応ソフトウェアを搭載した一体型無線テストを2013年2月にリリースしました。その後も、規格適合試験システムや基地局シミュレータで先進的な取り組みを行っています。

世界のコミュニケーション基盤を支える計測器の提供は、私たちの社会的責任の核です。今、お客さまやパートナーに必要とされるLTEやLTE-Advancedに対応する計測器を供給することがまさに、真の人類愛に不可欠な世界の人びとの深い結びつきを可能にすると確信しています。





産業機械事業 あなたの暮らしに安心を

ー異物検査、質量検査、品質管理システムなどで食の安全を支える
各種品質保証ソリューションー

アンリツ産機システム（株）は食品や薬品の製造ラインにおける品質保証を主な事業領域と位置付け、オリジナルな品質保証ソリューションを提供しています。

口にするものだから、安全・安心を確実に

より安全で安心して食べられる食品を求めることは、世界中の人々の豊かな社会の実現に欠かせない要求です。そのために、生鮮品・加工品を問わず、食品への異物の混入を防ぎ、決められた検査に合格した食品が流通される必要があります。また、医学的な効能を期待して口にする医薬品の検査はさらに厳密です。もしも重量や配合が誤っていれば、命にかかわる問題に発展しかねません。

アンリツはさまざまなソリューションを提供することで、食品・薬品の品質保証に貢献しています。

日本の品質レベルを海外へ

アンリツ産機システムの事業は、1960年代初めに開発した高感度変位センサが源流となっています。

以来、独自の技術と発想でさまざまなソリューションを展開しています。

食品メーカーや製薬会社の生産ラインを高速移動する検査対象の重量を瞬時に計測する重量選別機や、1ミリにも満たない混入異物を見つけ出すX線異物検出機や金属検出機は、出荷前の製品を全数検査するという非常に重要な役割を担っています。発売以来、重量選別機は累計販売台数6万台以上、異物検出機（X線、金属検出機）は4万台以上を国内外のお客さまにご提供してきました。

今、世界中で「安全と安心」への要求が益々高まっています。アンリツ産機システムは「地産地消」という事業戦略のもと、厳しい品質管理システムが定着している日本で蓄積してきた経験・ノウハウを活かし、世界の人々のテーブルに並ぶ食品、怪我や病気で使用する医薬品の品質保証ソリューションをお届けしていきます。



アンリツは、世界中のあなたのそばに

アンリツ産機システム 株式会社 執行役員 新美 眞澄

私たちはグローバルな販売、保守ネットワークの強化に取り組んでいます。またアジア新興諸国での品質検査市場の拡大に対応すべく、5年前に立ち上げたタイ工場の生産拡充と合わせて、2013年7月には、中国上海に新工場を開設し生産を開始しました。これは、世界中どこでも、日本国内と変わらないサービスを提供したいと考えているからです。

引き続き一貫体制の強みを活かしたオリジナルなソリューション提供を通じて、お客さまと共に「食品・薬品の安全と安心」を実現し、本業を通じてグローバルな社会に貢献してまいります。



3 情報通信事業 暮らしのインフラを支える

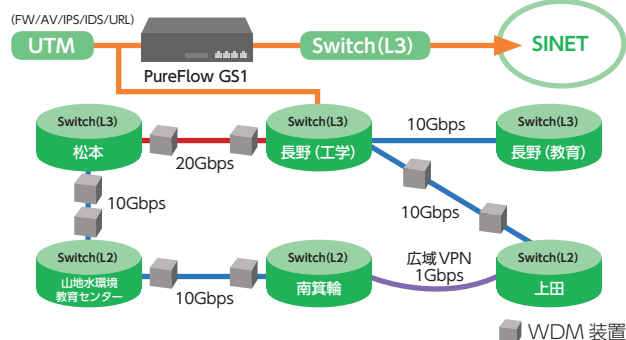
ーいつでも、どこでも安全・安心、快適につながる社会の実現に向けてー

アンリツネットワークス（株）は、安全・安心な社会を支える社会インフラ・通信インフラの構築に貢献し、ネットワークによる豊かなコミュニケーション社会を提供しています。

増加を続ける世界のデータ通信量

世界の IP トラフィックは増加の一途をたどっており、2017 年には 2012 年の約 3 倍に増加すると言われています。モバイルに関しては 2013 年度末までに、モバイル接続されるデバイスの台数が世界人口を超える見込みです。モバイルネットワークの普及も、その過程では必ず固定回線を経由するため、IP 網への負荷は益々大きくなります。回線の大容量化を進めながらも、限られたネットワーク容量をいかに有効に活用し、収容効率とサービス品質のバランスを確保していくかがネット社会の大きな課題となっています。

■ 導入例：信州大学のキャンパス間ネットワーク構成



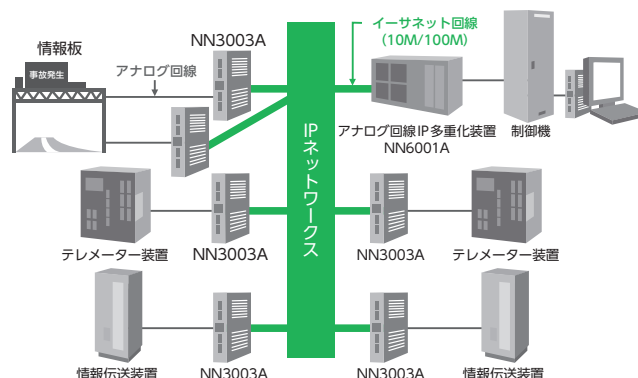
ネットワークシステムでの アンリツの活躍

このようなネットワーク環境においても、災害時の緊急情報や金融取引など、確実に伝える必要のあるデータは、欠落することなく送らなければいけません。アンリツは IP 網での安定通信を保証する帯域制御装置の専門メーカーとして国内導入実績 No.1* を誇っています。帯域制御装置は多くの官公庁や教育機関、企業内でご利用いただいています。

また、IP 化された広域ネットワーク網に対し、多くの企業内にはまだアナログ通信設備や機器が残されています。アンリツの IP コンバータはこうしたアナログ設備と広域 IP 網を接続するための変換機として、資産の有効活用と段階的なデジタル化への移行を支援しています。

* 台数ベース

■ IP コンバータを使った既存資産の有効活用



『つなぐ』～Being Smart and Skillful～に込めた想い

アンリツネットワークス 株式会社 経営企画室 担当部長 相澤 宣男

帯域制御装置は IP 網の回線帯域を最大限活用して、回線費用の低減や通信品質 (QoS) の向上にその効果を発揮しています。

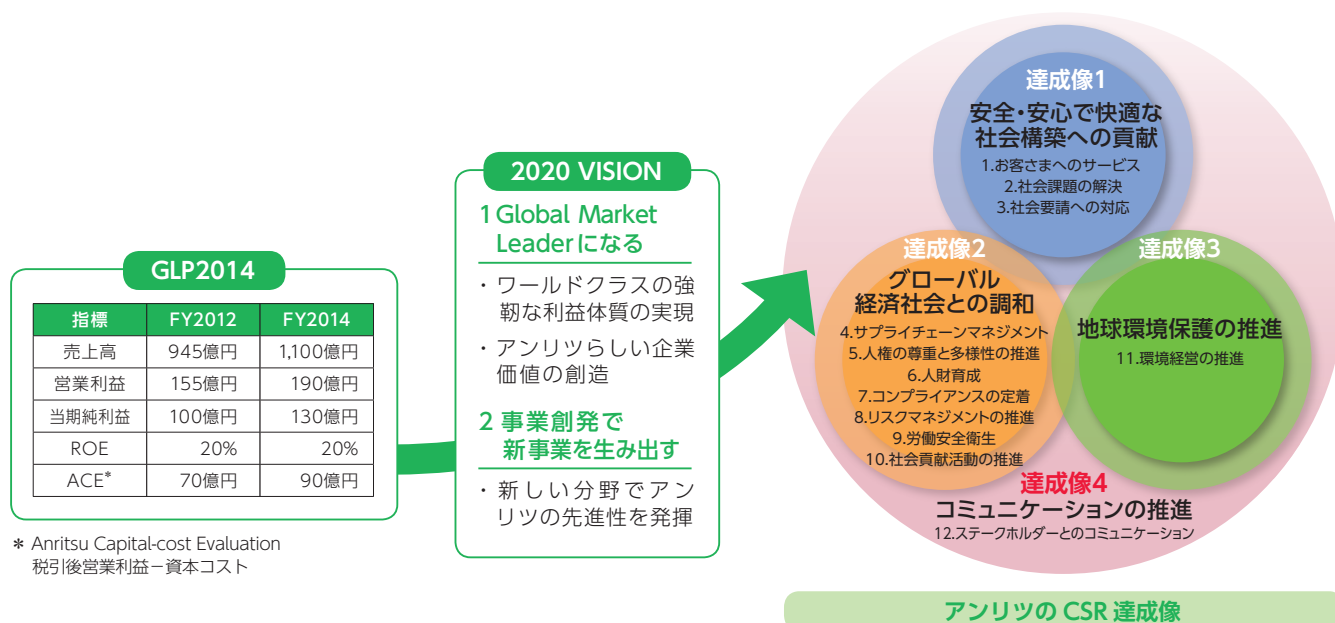
また、IP コンバータを用いて、お客さまのアナログ通信設備を IP 網に接続し、資産の有効活用をお手伝いしています。

私たちは今後も、『上手 (Smart) に』つなぐ、『器用 (Skillful) に』つなぐ、をキーワードに、お客さまのビジネス推進に貢献してまいります。



2つのCSR戦略課題を加え 事業戦略と連動したグローバルCSRを実践

ステークホルダーから信頼され続けるアンリツグループであるために、「人権課題への対応」と「現地 CSR の推進」を CSR 戦略課題として設定し、グローバル・マーケットリーダーに相応しい CSR 経営を目指します。



2012年度の実績と2013年度の目標

12の重要課題のうち、以下の5つをさらに重要な課題と位置づけて取り組みを進めてきました。

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ（株）および国内グループ会社です。

達成度 …………… ○：達成 △：達成率 50% 以上

達成像	重要課題	2012年度実績	達成度	2013年度目標
【達成像 1】 安全・安心で快適な 社会構築への貢献	お客さまへのサービス	①中国でプレゼンテーションを行い、CS行動指針を共有 ②新入社員・マネージャー・担当者へのCS教育の実施 ③お問い合わせ窓口のリスト整備とCRMシステムのテスト導入	○ ○ ○	①CS行動指針の共有（グローバル） ②中国でのCS教育の実施 ③お客さまサポートセンターの充実
【達成像 2】 グローバル経済社会との調和	サプライチェーンマネジメント	①Global Supply Chain Committee（GSCC）のキックオフ開催、日米欧中の4拠点が連携したサプライチェーン構築を開始 ②不良率・納入率の改善、RoHS対応率向上のため、18社に工程監査を実施 ③2012年度企業倫理アンケート実施（47社 54名から回答受領、違反なし） ④BCPとして、2次以降の取引先さまを中心に1,766拠点のデータを収集	○ ○ ○ ○	①グローバルSCM体制の構築（GSCCの推進） ○ ②有害物質監査体制の確立 ③紛争鉱物対応の確立（CSR調達への推進） ④BCM・ガバナンス体制の強化
	人権の尊重と多様性の推進・人材育成	①中国でのインターナシップ、フィリピンでのリクルートを実施し、外国籍社員採用を拡大 ②人材育成につながる評価制度を整備し、2013年度のトライアルを決定 ③グループ会社にて高齢者・障がい者の職域開発の専門部門を設置し、グループ内外への派遣、新規事業の可能性を検討 ④グローバルでのESサーベイの実施（国内、U.S.A.、中国）	○ ○ △ ○	①外国籍社員採用の定着化 ②人材育成につながる評価制度の素案完成 ③高齢者、障がい者の職種、職域開発の企画書の作成 ④GHRC（Global Human Resource Committee）活動の再開
【達成像 3】 地球環境保護の推進	環境経営の推進	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物の発生量（国内）：114.5トン（目標：160.4トン以下） - 埋め立て廃棄物の排出量（U.S.A.）：2010年度比42%削減（目標：5%削減） ②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量（国内）：2006年度比24.6%削減（目標：9%削減） - エネルギー使用売上高原単位（U.S.A.）：2010年度比40%削減（目標：5%削減） ③エコプロダクツ（国内アンリッツグループ） - 対象製品6機種すべてを環境配慮型製品として開発完了 - 対象製品3機種すべてを省資源10%以上として開発完了 - 対象製品2機種すべてを消費電力改善率30%以上として開発完了	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物の発生量（国内）：160.4トン以下に維持 - 埋め立て廃棄物の排出量（U.S.A.）：2010年度比20%削減 ②省資源・省エネルギー - エネルギー使用原単位（国内）：2020年までに2012年度比年平均1%削減 - エネルギー使用売上高原単位（U.S.A.）：2010年度比5%削減 ③エコプロダクツ（国内アンリッツグループ） - 対象製品すべてを環境配慮型製品として開発完了 - 対象製品すべてを省資源10%以上として開発完了 - 対象製品すべてを消費電力改善率30%以上として開発完了
【達成像 4】 コミュニケーションの推進	ステークホルダーとのコミュニケーション	①ステークホルダーダイアログ実施およびCSR報告書での報告 ②グローバル地域でのCSR報告書の配布と利用促進	○ ○	①ステークホルダーダイアログによるコミュニケーションの推進 ②グローバル地域でのCSR情報発信の推進

・ U.S.A. とは Anritsu Company(米国) を表します。

2つのCSR 戦略課題

社会的責任に関する手引き ISO26000 が発行されるなど、社会からの要請も変化するなか、アンリツでは計測事業を中心にグローバル化がさらに進展し、各地域の主体的な活動推進や地域間の連携がこれまで以上に求められています。

このような状況において、アンリツグループとして 2020 年までに到達したい姿を描いた「2020 VISION」と、そのマイルストーンとなる中期経営計画 GLP2014 の達成に向け、CSR 経営を進めています。

人権課題への対応

事業展開のグローバル化に伴い、海外の取引先さまからの調達、現地での生産・販売・サポートサービスを進める機会が増えています。国内外のアンリツグループはもちろん、各地域の取引先さまを含むバリューチェーンにおいても人権への配慮が強く求められています。

当社の定める「アンリツグループ企業行動憲章」の第一項は「人権尊重」であり、この「アンリツグループ企業行動憲章」に沿った、より具体的な行動の原則を定めた「アンリツグループ行動規範」では、基本姿勢の第一に「人権尊重」を据えています。

取引先さまとの関係においては「資材調達基本方針」に「人権と労働への配慮」を含め、人権問題に配慮するとともに、児童労働や強制労働の禁止を含む「CSR 調達ガイドライン」を制定し、協力を要請しています。現在は特に紛争鉱物規制の趣旨に賛同し、サプライチェーンを構成する各企業とともに社会的責任を果たすため、紛争鉱物の使用状況の調査と不使用に向けた取り組みを推進しています。

現地CSRの推進

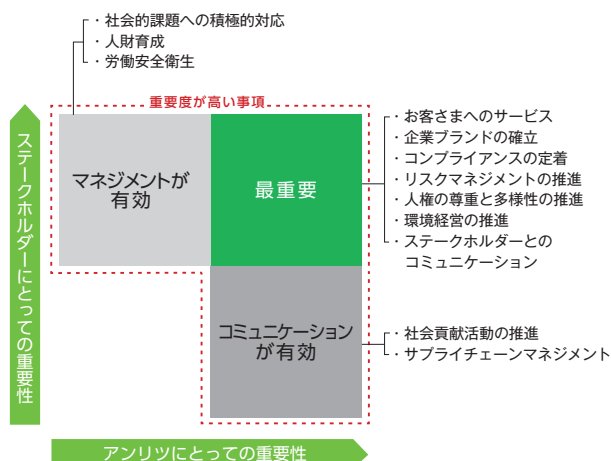
上記の人権課題への対応と関連し、米州・欧州・アジア地域の CSR 担当は各地域の人事部門が担っています。本社コーポレート部門を中心に、「アンリツグループ企業行動憲章」や「アンリツグループ行動規範」の展開・定着化、グローバル全体でのお客さま満足度の把握や社員満足度の調査などを実施し、定期的なコミュニケーションの機会を設けて、各地域での CSR 目標や課題、取り組み状況の把握に努めています。

グローバルでの事業展開を支える CSR マネジメント体制の確立に向け、社長が委員長を務める CSR 推進委員会を最高決定機関とし、グループ各社と横断的な連携をとりながら、各地域の状況に沿った CSR 活動を推進していきます。

重要性測定の手法と結果

アンリツは 2008 年、客観性と網羅性に配慮し、ステークホルダーごとに分類した社会から要請される 142 項目について、社内のキーパーソン 30 人へのヒアリングなどを通じて重要性測定を行いました。

この結果、142 項目のうち特に重要性が高いと識別された、赤枠部分の領域にプロットされた 12 項目を、アンリツにとっての重要課題ととらえました。



グローバル展開する アンリツグループに期待するCSR

アンリツでは「コミュニケーションの推進」を4つの達成像の一つとして重要視し、CSR経営の全体を支える基本的な姿勢と位置づけています。

2012年度のダイアログに参加いただいた有識者3名に今年もご参集いただき、新しい取り組みの確認を行いました。



株式会社アイディアシップ

後藤 大介様

2007年までの3年間、達成像の策定や情報開示のあり方をご支援いただきました。

アンリツ株式会社
執行役員

川辺 哲雄

CSRアジア 東京事務所
日本代表

赤羽 真紀子様

外部の勉強会の機会を通じて、最近のアンリツCSR活動へのコメントをいただきました。

アンリツ株式会社
CSR推進チーム部長

土肥 正彦

アンリツ株式会社
環境・品質推進部長

高杉 和宏

アンリツ株式会社
取締役 執行役員

谷合 俊澄

経済人コー円卓会議日本委員会
ディレクター

山口俊宗様

2007～2008年に12の重要課題を抽出した重要性測定でアンリツをご支援いただきました。

ファシリテーター：サステナビリティ会計事務所 福島隆史

グローバルCSR推進のための、共通の価値観

山口：グローバルでのCSR推進について、昨年のダイアログでは包括的な意見が交わされました。これを具体的に文化や商習慣の異なる各地で進めようとすると、日本でのやり方が通用しない事例が多く見られます。前提となる、グローバルで共通の価値観を示していく必要があるでしょう。

川辺：当社には経営理念として「誠と和と意欲」があり、グローバルに展開しています。特に「誠」や「意欲」については全地域でかなり浸透しています。アンケート結果によると、アンリツは真面目で誠実だという結果が明確でした。また弊社のように約120年続いているハイテクカンパニーは珍しく、これは常に新技術に挑戦してきた「意欲」の現れと理解しています。こういった基盤を活かし、グローバルに共有できるアンリツらしい価値

観を作り上げて行きたいと思っています。

赤羽：グローバルにCSRを浸透させる施策として、現地トップの人事評価や業績指標にCSRの要素を組み込むのがよいでしょう。例えばCSR報告2012のトップコミットメントで社長がおっしゃっている「本業を通じた貢献」を数パーセント入れる。あるいは各地域でCSRの窓口を兼務する人事担当者に小さくても決定権を認めてあげる、少額でも予算を付与して現地に即した活動を任せるなどがよいでしょう。

後藤：歴史ある日本企業らしい、柔らかいマネジメントスタイルでのグローバルCSRの推進があってもよいと思っています。例えばCSRレポートを英語で編集し、制作段階から各地の意見を取り入れることで参加意識を高めることも方法の一つかも知れません。



マテリアリティが浮かび上がるレポート

赤羽：グローバルでの共通的な価値観ともつながるのですが、CSR レポートを読んで、その企業のマテリアリティがどこにあるのか、浮かび上がってくるようなレポートであって欲しいと思います。例えば誠実さの現れとして労働安全では世界一を目指すとか、アンリツにとって何がマテリアリティなのかが伝わる発信ができれば存在感も高まるでしょう。

土肥：今回、各地で紛争鉱物への回答が求められている現状を踏まえ、「人権課題への対応」と、先ほどの議論にもある「現地 CSR 推進」の 2 つを CSR 戦略課題として設定しました。特に人権は特定部門に閉じたテーマではなく、組織横断的に取り組む必要があり、CSR の重点テーマと位置づけました。

山口：経営の観点から言うと、この 2 つは「経営リスク」と「現地オペレーションの効率化」に取り組むことを意味しています。マテリアリティはより事業の方向性と関連しながら、あえて宣言しないと進みにくいものを設定するのがよいでしょう。最初から人権と大きくとらえると大変なので、例えばまずは紛争鉱物をきっかけに、取引先を監査する過程でサプライチェーンの人権課題が見えてくれば、そこからより広く人権に展開するのも一つの方法です。まずは紛争鉱物からスタートし、そこから付加価値を生むようなとらえ方で進めるのがよいでしょう。

川辺：紛争鉱物はまさに事業リスクとして、各地で統一した回答が求められる状況です。同様のテーマとして贈収賄もあります。アンリツには「誠」が浸透しているものの、落とし穴があるかも知れませんが、代理店も含めて管理が十分とは言えません。まずは事業展開を進めるアジアから、現地監査も含めて対応を検討しています。

山口：昨年のダイアログでもお話された事業創発プロジェクトの進捗はいかがですか。

谷合：今年になって狙う方向を定めています。その過程では、アンリツが将来どうありたいか、どの方向で今の事業を活かし、保有する技術を駆使して、世の中にどのように貢献していくのかを議論しています。そのためには経営理念が明確で、方向性がしっかりしている必要があります。そうでなければ世界中の社員が結束し、大きな力を発揮することもできないでしょう。



製品ライフサイクルでの環境影響の把握と改善

高杉：CSR 報告 2012 ではライフサイクル全体で環境影響を把握し、改善していくことを宣言しました。まずは現状を把握するため、今回は GHG プロトコル^{*1}などを参考にスコープ 3 データ^{*2}の集計範囲を拡大しています。また、2012 年度には CDP^{*3}から初めての調査要請があり回答しました。今後はさらに CO₂ 排出の項目を把握し、環境影響の改善につなげていく予定ですが、経営指標と結びついた適切な KPI の設定を検討しています。

*1 企業が排出する温室効果ガスを決まった形式で報告できる国際基準

*2 製品の使用・廃棄にかかわる CO₂ 排出、物流や社員の出張・通勤に伴う CO₂ 排出など

*3 Carbon Disclosure Project

後藤：さらに大きな一歩を踏み出されたと思います。昨年は、財務指標との組み合わせによる効率指標（原単位）を一つの考え方としてご提案しましたが、CO₂ 排出量などの絶対量でもよいと思います。できれば、グローバルで大きな目標を示し、各地でブレイクダウンした目標に向かって取り組む形が望ましいと考えます。

土肥：引き続き、皆さまからのご意見を参考に、アンリツらしい取り組みを検討していきます。

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツは、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスによって
皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

グローバルサポート体制での知的財産管理

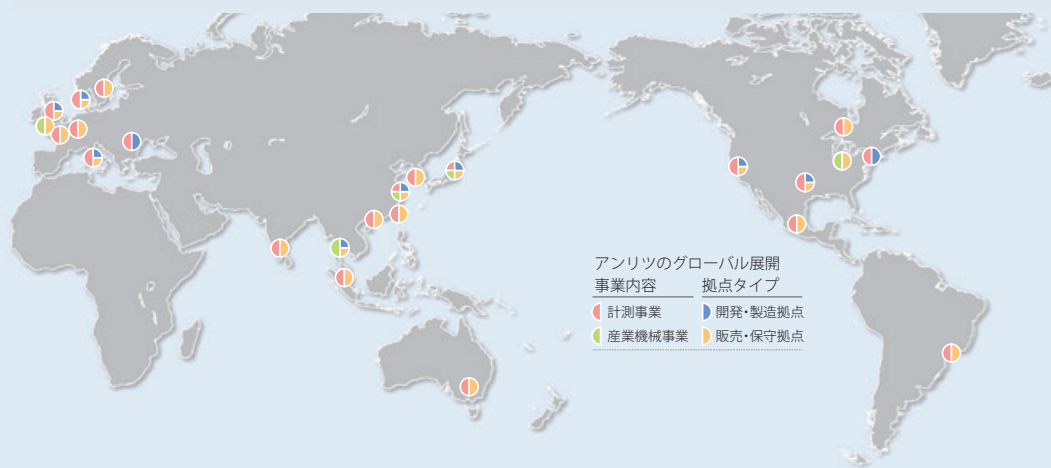
アンリツはイノベーションを経営ビジョンに掲げる企業として、約120年の間、通信技術と共に歩んできました。自社の知的財産を保護するとともに、第三者の知的財産権を尊重し、北米、欧州に広がる6拠点を含むグローバルでの研究開発体制を整え、ソフト・ハード両面でお客さまの期待に応える製品開発に努めています。

常務執行役員
技術総括
城野 順吉



グローバルサービス

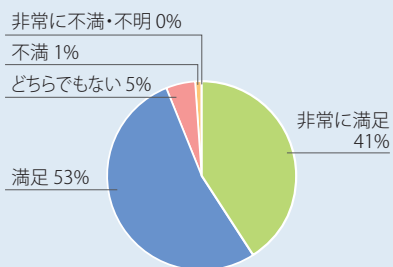
アンリツグループでは、16カ国 24カ所にサービスセンターを配し、グローバルなお客さまに安心してご利用いただけるよう各種サービスを提供しています。



CS 調査

アンリツグループでは、お客さまの満足度を高める取り組みとして、各地域でアンケート調査を実施し、改善計画の策定に活かしています。

Anritsu Company (米国) では、全体の満足度で94%のお客さまに「非常に満足」あるいは「満足」と回答いただきました。このような活動を通して世界中のお客さまにアンリツの商品やサービスを安心してご利用いただけるよう努めています。



Anritsu Company (米国) での
アンケート結果

品質マネジメント

アンリツが提供する計測器や検査機器は、お客さまの品質管理におけるマザーマシンと言えます。したがって、常に安定した品質を備えていなければなりません。アンリツグループでは、品質マネジメントの国際規格であるISO9001に基づく品質保証体制のもと、製品の設計・開発から製造・サービス・保守に至るまでの一貫した体制をグローバルに展開しています。PDCAサイクルを確実に回し、継続的改善を推進しています。



ISO 9001 マネジメントシステム登録証

グローバル経済社会との調和

アンリツは、誠実な企業であるための基盤を強化し、社員の人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場を整備するとともに、サプライチェーンや地域・社会との信頼関係を構築します。

郡山第二事業所の操業開始

アンリツグループのプリント基板の自動組み立て工程を集約した、マザー工場としての郡山第二事業所が操業を始めました。東日本大震災の被災地の復興支援だけでなく、整った物流網による納期短縮や基幹技術の国内での蓄積も考慮し、福島での生産拡大を計画しています。東北から世界の各地にアンリツの商品が供給されます。



SCM と IT 領域での BCP 強化

アンリツグループでは、国内の重要な生産拠点である東北アンリツ・郡山事業所を中心に、各種災害に備えた BCP を強化するため、発生時の対応手順の明確化、取引先さまの拠点情報を含むサプライチェーンの見える化とアンリツグループ内での共有の基盤整備を行いました。

また IT 領域では 2011 年度から、重要サーバの大阪データセンタへの集約を行ってきました。2012 年 7 月にすべての移設が完了し、10 月には復旧訓練を実施しました。復旧訓練においてはシナリオを策定し、復旧手順書にしたがって復旧作業を行い、手順書や目標復旧時間の妥当性評価を行いました。

引き続き、災害発生時の早期復旧、お客さま支援への備えを進めていきます。

グローバル人財育成

2012 年 4 月の約 2 週間、2012 Global Training を本社で実施しました。アンリツの海外拠点で計測ビジネスを担うセールスエンジニアが一堂に会し、計測市場や主要顧客の動向、アンリツの戦略などの情報を交換するとともに、座学や実機操作で製品を学ぶ毎年開催されるトレーニングです。今回はワイヤレス・ワイヤード合わせて約 80 名が参加し、約 40 名の社員がトレーナーとしてサポートしました。

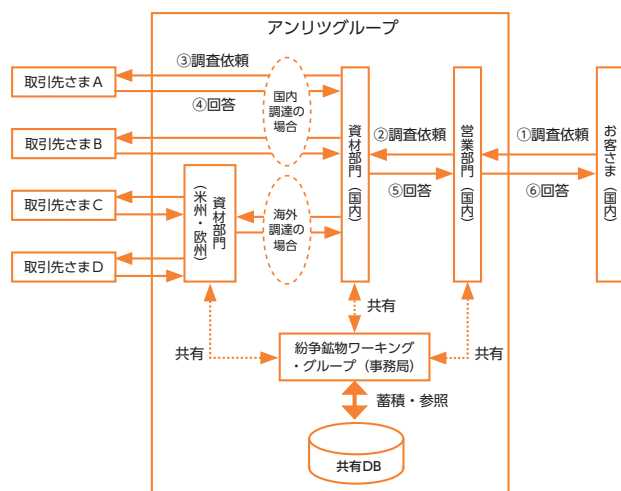


ワイヤードトレーニング

重点テーマ報告「人権課題としての紛争鉱物」

2012 年の米国金融規制改革法 1502 条（いわゆる紛争鉱物規制）の最終規則採択を受け、アンリツもこの趣旨への賛同を表明し、アンリツ製品に紛争鉱物が含まれることを防ぐためにサプライチェーンへの対応を開始しました。取引先さまに対して説明会を開催し、漏れの無い対応に努めています。

お客さまからの問い合わせに対し、国内外の取引先さまに調査を依頼して回答するとともに、本社の紛争鉱物ワーキング・グループに情報を集約し、共有データベースに蓄積しています。



国内のお客さまへの対応

環境経営の推進

アンリツは、環境に配慮した商品と生産を追求し、グローバル環境経営を推進することで、地球環境保護に積極的に貢献します。

新工場での環境対策

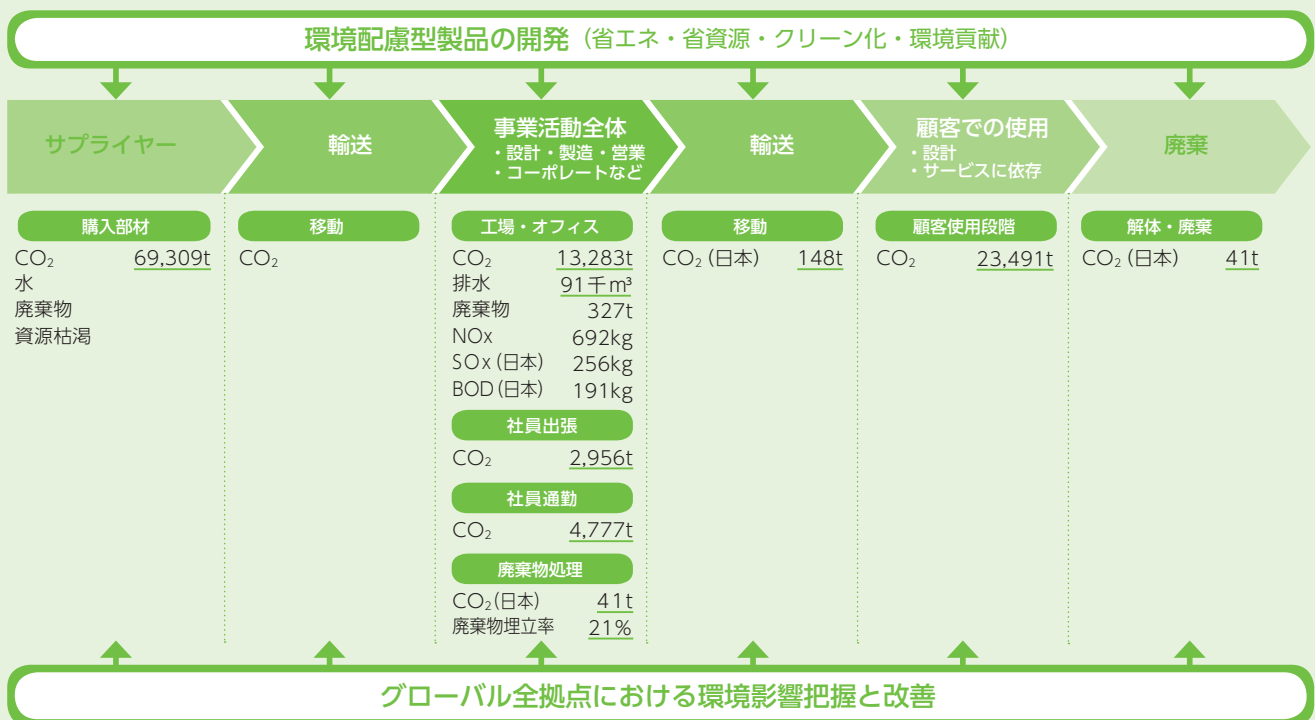
郡山第二事業所は、安全・安心の環境保全工場を一つの大きなコンセプトとして建設しました。写真は新工場に設置した最大出力 200kW の太陽光発電設備です。

アンリツは、工場・オフィスの環境負荷低減、環境配慮型製品の開発という両側面から、製品のライフサイクル全体を考慮した環境経営を推進します。



ライフサイクルシンキングによるグローバル環境経営

グローバル環境経営を推進するアンリツグループでは、製品のライフサイクル全体を見据えた環境配慮型製品の開発と、グローバル全拠点における環境影響の把握・改善という両面から環境負荷低減を目指しています。



* 現時点で把握できている項目については数量を記載し（小数点以下は四捨五入）、把握できない項目については項目名のみ記載しています。

* 「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に準拠し、算出しています。

* 下線は 2011 年度と比較して、集計範囲を拡大した項目です。詳細はウェブサイトをご参照ください。URL : <http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/environment.aspx>

エクセレント エコ製品の開発

アンリツ株式会社 R&D 統轄本部 商品開発本部 山田 康典

ユニバーサルワイヤレステストセット MT8870A は通信モジュールなどの量産製造向けに開発した計測器です。最大 4 つの送受信テストモジュールを搭載することができるため、スマートフォンなどの 4 つの被試験デバイスを同時に測定することが可能です。端末製造工程の調整と検査に測定機能を絞り込み、必要とする回路を減らすことで小型化 / 省電力化を実現し、従来製品と比較して体積および質量で約 50%、消費電力で約 60% の削減に成功しました。



コミュニケーションの推進

アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

展示会への出展

お客さまに当グループの製品をより理解いただくために、多くの展示会に参加しています。スペイン・バルセロナで開催されたワイヤレス通信分野最大の国際展示会「Mobile World Congress」ではLTEのさらに次世代の通信規格であるLTE-Advancedに対応した計測・モニタリングソリューションを紹介しました。



SRIを含む社外からの評価

アンリツは「モーニングスター社会的責任投資株価指数」*および損保ジャパン日本興亜セッ トマネジメント株式会社（以下、SNAM）の「SNAM サステナブル投資ファンド」の対象銘柄に選定されました。また当社は成長戦略とマーケットにおけるリーダーシップが評価され、海外市場調査会社であるFrost & Sullivan社から、テストメジャメント部門の「2012 Global Frost & Sullivan Award for Company of the Year」に選定されています。



* 2013年4月1日現在

第三者意見

アンリツは常に時代の要請に応えるために、どのような状況下にあっても研究開発への投資を継続することによって、常に世の中のニーズに対して、最先端の技術で応えようという姿勢を貫いています。橋本社長がブランドの磨き直しにあたり「Visionary Partnership to innovate for tomorrow's society」というメッセージを掲げています。これはアンリツグループが名実ともに世界企業になっていくのだという高い志を社内外に伝え、アンリツグループの経営哲学にCSRが組み込まれていることが良く表されています。

世界企業に求められる重要課題として、「サプライチェーンと人権」に関して高いレベルでの取り組みが期待されています。このテーマは非常にリスクが高いものの、海外の現地工場や取引先などについても情報開示が求められるようになっています。教育やコミュニケーションなどを通じ、現場での意識をいかに高めていくかが重要です。

アンリツは米州、欧州、アジア地域で現地の人事部門が兼務してCSRを推進するというしくみを作っています。

CSRアジア 東京事務所 日本代表
赤羽 真紀子



こうした現地のしくみを通じて、人権課題をはじめ、社会課題への対応を行うことは、本社で一括して行うよりもスピード感をもってできる上、現地の事情に即した対応が可能になります。世界各地の組織が責任感を持ち、自信を持って複雑な社会課題にあたるように、責任と権限を明確にすることが重要です。

また、アンリツに今後の取り組みで期待したいことは、「NGO・NPOとの対話」です。CSRアジアの有識者ヒアリングでも、アジアにおけるCSRの舞台で今後もっとも影響力のあるセクターとして「NGO・NPO」が2011年から連続してトップに挙げられています。世界企業を目指すアンリツには、ぜひ今後はさらに戦略的に、NGOやNPOとの関わりを検討されることを推奨いたします。

第三者意見を受けて

2012年度の活動報告に対し評価をいただきありがとうございました。ご指摘いただいた「サプライチェーンと人権」、「グローバルCSRの推進」および「NGO・NPOとの対話」について、今後の活動の重要な課題として取り組みます。今後も赤羽様を

はじめとするステークホルダーの皆さまからのご意見を活かし、CSR活動を推進していきます。

アンリツ株式会社
コーポレートコミュニケーション部 CSR推進チーム



アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名 5-1-1

TEL: 046-223-1111

<http://www.anritsu.com>